

## 保存用資料

### 新型インフルエンザへの備え

近年、鳥インフルエンザ（H5N1）が鳥から人に感染する事例が数多く報告されていますが、この鳥インフルエンザウイルスが変異し、人の体内で増えることができるように変化し、人から人へと効率よく感染できるようになったウイルスによる疾患を新型インフルエンザといいます。新型インフルエンザは、人類のほとんどが免疫を持っていないために、容易に人から人へ感染するため、発生すれば世界的な大流行（パンデミック）が懸念されています。普通のかぜの症状と違い（のどの痛み、鼻汁、くしゃみや咳）、インフルエンザの場合は38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛など全身の症状が強く出現します。さらに、気管支炎、肺炎、小児では中耳炎、熱性けいれんなどを併発し重症化することがあります。

現状では新型インフルエンザは出現していませんが、通常のインフルエンザは、感染した人の咳、くしゃみ、つばなどの飛沫中のウイルスを吸入することによって感染しますから、**外出後の手洗い、マスクの着用、流行地への渡航、人混みや繁華街への外出を控えることなどが予防対策として重要**といえます、またインフルエンザに感染して症状のある人は、病気の悪化や周囲への感染を防ぐために、自宅で休養することも大切で、他人に接しなければならない場合は、咳やくしゃみをする際にはティッシュで口元を覆うか、マスクを着用することが勧められます。

現在、政府はプレパンデミックワクチンを備蓄していますが、プレパンデミックワクチンは、現在の流行している鳥インフルエンザに対するワクチンで、新型インフルエンザに対する有効性が完全に確立しているものではなく、また予防接種は一定の割合で人体に有害な副反応が出現するため、実際にワクチン接種を開始するのは、新型インフルエンザの発生確認後の予定で、対象も医療従事者や電気・水道等のライフライン従事者などとされています、当然、実際に発生した新型インフルエンザウイルスを基に製造されるパンデミックワクチンは、国民全員を対象に考えられています。

### 予防対策

- ① 不要不急の外出を避け、不特定多数が集まる場所を避ける
- ② 外出後の手洗い（せっけん、消毒用アルコール使用）
- ③ マスクの着用（ガーゼマスクより不織布・サージカルマスク） 備蓄数 20～25枚/人  
※手洗いせっけん・マスク・食料の備蓄を忘れない。

（出筆者 ふじさわクリニック 院長 藤澤攻先生 岐阜市三田洞 237-7200）

### 編集 後記

あけましておめでとうございます。Agora通信も2年目に入り、皆様に楽しく充実した紙面になるように、心掛けたいと思います。Agora研修会（第1・3水曜日 18:30～）では宅建講座をはじめたいと思います。挑戦したい方は勉強しに来てください。